

直喩標識としての「じゃないけど」

— 談話における直喩とアナロジーの再考に向けて —

岡本雅史

立命館大学

要旨

これまで認知言語学の立場では、直喩（シミリ）は「メタファー」の名のもとに隠喩と共通の認知メカニズムを有するものとして捉えられ、その特性を問題にすることは少なかった。例えば鍋島（2016）では、直喩と隠喩がいずれも写像と融合で記述できることなどから、直喩はメタファーの一種であり、メタファーらしさやメタファーの明示性の度合いがあるだけであると述べている（鍋島、2016: 253-286）。それに対し、小松原・田丸（2019）では、中村（1977）や山梨（1988）が指摘する直喩の指標表現の多様性に着目し、直喩における指標の働きを「写像方略」と捉え、その類型化を試みている。彼らの分析は指標の言語的に表す関係と比喩写像（metaphorical mapping）との関係を新たに問題にしている点で非常に興味深い示唆に富むものである。

しかしながら、そもそも直喩を隠喩との対立軸で捉えるだけでは抜け落ちてしまう側面がある。それは、直喩や隠喩といった比喩表現としての言語形式が確立する以前に、比喩写像の基盤となる認知プロセスである「アナロジー」自体が有する否定的側面である。つまり、XをYで喩えるという認知的な見立ては、XとYの「類似性」や「共通性」に焦点を当ててはいるが、同時に $X \neq Y$ であるという両者の「相違」を不可避に孕んでいる。比喩写像を基にした議論は、しばしば起点領域と目標領域の間の写像に基づく類似関係に拘泥し、アナロジーの潜在的な否定性が等閑視されやすい。

こうした問題意識から、本発表では、①主に否定的直喩標識としての「じゃないけど（ではないが）」に着目することでアナロジーの否定的側面がどのように言語化されるのかを観察するとともに、②そうした否定的側面がプロファイルされる基盤を実際の日常会話の談話シークエンスの分析によって浮かび上がらせることを目的とする。なお、データとして、主に小説などの書き言葉については『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』（新潮社）を、日常会話場面での話し言葉については『日本語日常会話コーパス』モニター公開版（国立国語研究所）を使用した。

分析の結果、（1）小説などの書き言葉よりも日常会話で否定的直喩標識が用いられやすいこと、（2）日常会話では否定的直喩標識「じゃないけど」を含む発話に対して直喩標識「みたいな」を伴った表現が後続するケースが多いこと、（3）談話における直喩標識とヘッジ表現に共通したものがある、といった重要な傾向が観察された。こうした傾向の背景には、談話における話し手と聞き手の共有基盤化プロセス（Clark 1996; 岡本 2018）が大きく関わっていると考えられ、今後はこうした共有基盤の観点から比喩の動機づけと産出プロセスを再検討する必要があると示唆された。

1. 書き言葉での事例（*（4）（5）は直喩標識と言い難い例）

- (1) 「ともかく日本人は恋を軽蔑しすぎている。仲田ではないが、恋する男に娘をやるよりは見ず知らずの男に娘をやることを安心と心得ている。（以下略）」（武者小路実篤『友情』）
- (2) 何事もおぼしめしそのままなる人生だ。えらそうな事を考えてみたところで、運命には抗しがたい。昔男ありけりではないが、ああ、あんな事もあった、こんな事もあったと、暗い窓を見ていると、田園の灯がどんどん後へ消えてゆく。（林芙美子『放浪記』）
- (3) パスカルではないが、我々が尋常な社会生活を営んでいる時はいつも何か、我々の気を紛らせてくれるものがある。（吉田健一による『野火』の解説）
- (4) 言いわけをするわけではないが、私はそれほど多くの女に対して好感を抱くわけではない。どちらかといえばあまり抱かない方だと思う。（村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』）

- (5) かわいがったのを恩に着せるではないが、もとを云えば他人だけれど、乳呑児の時から、民子はしょっちゅう家へきて居て今の政夫と二つの乳房を一つ宛含ませて居た位、お増がきてからもあの通りで、二つのものは一つ宛四つのは二つ宛、着物を拵えてもあれに一枚これに一枚と少しも分け隔てをせないできた。(伊藤左千夫『野菊の墓』)

2. 日常会話での事例

(* 転記記号については次のサイトを参照せよ：<https://pj.ninjal.ac.jp/conversation/cejc-monitor/transcript.html>)

【断片1】 T016_003 (432.7-469.3) 自宅で夕食後に妻とくつろぎながら雑談 (2名)

432.7	433.7	慎吾	でも 何人ぐらい来てたの。	446.1	446.3	慎吾	うん。
434.3	435.7	理奈子	何人ぐらいいたかな。	451.0	456.2	理奈子	何人かいて:(D スー) (F その) なんか (F その) 定例会じゃないけど。
438.6	439.5	理奈子	三十人?。				
440.0	440.1	慎吾	え。	452.2	452.4	慎吾	うん。
440.1	440.6	慎吾	そんないたの?。	456.2	456.4	慎吾	うん。
440.8	440.9	理奈子	いや。	456.3	458.5	理奈子	毎回やって。
440.9	441.7	理奈子	いたいたいた。	462.1	462.4	理奈子	これ。
442.7	450.5	理奈子	きょうのゲストってゆうか (F その) 初めて来る人が:えっと:何人だったかな。	465.0	469.3	理奈子	それ以外に たぶん (F その:) 毎回来てる人たちがいるん:じゃないかな。

【断片2】 T001_011 (2583.5-2611.4) 喫茶店で妻・友人夫婦と食後のお茶をしながら (4名)

2583.5	2594.2	新田	でちょうどこの(0.364)ゾグザグじゃないなってゆうのは(0.569)(F あの)(.)その時に:(1.04) (F その)(1.419)圧力が大きいら:(0.67)英雄が生まれるわけで。	2601.5	2602.1	洋平	うーん。
				2604.4	2605.5	千秋	うーん。
				2604.6	2605.5	優香	うーん。
				2604.8	2605.7	新田	(L)
2594.2	2594.6	千秋	うん。	2604.8	2606.0	洋平	うーん。
2594.3	2594.9	洋平	うーん。	2605.5	2606.2	千秋	うん うん。
2594.7	2597.9	新田	圧力が大きくなかったら:(0.266)英雄は生まれないわけで。	2605.7	2607.2	新田	(L 橋本環奈じゃないけど)。
				2606.7	2607.5	優香	(L)
2596.5	2597.1	千秋	うん。	2606.7	2607.6	千秋	(L)
2596.6	2596.8	洋平	うん。	2607.0	2608.0	洋平	(L)
2597.8	2598.3	千秋	うん。	2607.2	2608.1	新田	(L)
2598.0	2598.7	洋平	うーん。	2607.5	2608.1	優香	うん うん。
2598.2	2604.8	新田	そうゆう別の波が(0.228)いろんな種類の(0.102)ものがあるって:(0.241)それが相まった時に:(0.299)千年に一人なの(L か:)。	2607.6	2609.0	千秋	(L うん うん うん)。
				2608.1	2611.4	新田	そうゆう:地点がたぶんあるんじゃないかな。

【断片3】 S001_018 (1809.8-1835.1) 職場のテニスクラブで会員2人とイベント企画の相談 (3名)

1809.8	1809.9	浜野	あっ。	1823.5	1824.8	健	(R 小沢)さんに発注して:。@趣味でお菓子やパン作りをしておりすごく上手
1810.2	1814.8	浜野	そしたらさ その時にほら(0.149)(R 小沢)さんの(0.129)ちょっと こう(0.17)焼き菓子とかを(0.353)(F あの)。	1824.7	1825.3	浜野	そう (G そう そ) (G そう そ) (G そう そ)。
				1825.0	1825.3	堀江	(L)
1814.2	1814.3	堀江	ね。	1825.3	1826.1	堀江	(L ちゃんとね:)
1814.3	1815.5	堀江	あたし そう思ってた。	1825.3	1827.8	浜野	だから そうゆうのを (D ン) (W コ こう) (G まあ ま)(D ン)ランチじゃないけど。
1815.3	1816.1	健	あー。				
1815.7	1818.3	堀江	パンとかさ: 売ったらいいのになって思っちゃった。	1826.1	1826.5	健	うん。
				1827.6	1828.2	堀江	うーん。
1816.2	1816.6	浜野	そう (G そう そ)。	1827.9	1830.1	浜野	ちょっとこう(0.463)お菓子付きみたい(L なの)で。
1816.6	1817.1	浜野	そうゆうのを。				
1817.4	1817.7	浜野	うん。	1830.1	1834.0	浜野	で (F その) それで:(0.147)ちょっとこう(0.229)(F あの)(0.106)プラス百円ぐらい乗せちゃって。
1818.0	1820.2	浜野	(F あの:)(0.143)ほんとに こう(0.3)ちょっと(0.193)(D フ)。				
1819.4	1820.2	堀江	うーん。	1830.1	1831.0	堀江	あったね:。
1820.5	1820.6	浜野	ん。	1831.0	1831.5	堀江	うーん。
1820.6	1820.8	浜野	ね。	1831.1	1831.3	健	あ。
1821.7	1821.9	浜野	(T うん)。	1831.4	1832.0	健	なるほど。
1822.5	1822.7	浜野	(W ン なん)か。	1833.7	1835.1	健	それはいいかもしない。
1823.1	1823.5	健	そっか。				

【断片4】 TT001_011 (1941.6-2076.9) 喫茶店で妻・友人夫婦と食後のお茶をしながら (4名)

1941.6	1944.9	新田	なんか(0.188)(W (D コ) コモンズ)(.)コモンズの悲劇って:聞いたことある?。	1998.5	2003.7	新田	要は(0.155)一番その国が:(0.443)得られたらまずいだろうなってものを奪うわけよね。		
1945.0	1945.5	洋平	知らない。	2000.5	2000.8	洋平	うん。		
1946.0	1952.1	新田	コモンズってゆうのは:(0.141)(F あの:) 共通の所有物(0.604)共通の所有物のことを(0.121)コモンズってゆって。	2002.3	2002.9	優香	うん うん。		
1952.2	1953.2	洋平	うーん。	2002.9	2003.2	洋平	うん。		
1953.0	1955.5	新田	で それを:(0.395)シェアしようとするん。	2003.7	2004.5	優香	うん うん うん。		
1955.7	1956.6	洋平	うん うん うん。	2004.2	2004.5	洋平	うん。		
1956.2	1959.9	新田	でも:(0.904)(F あの:)(0.496)百人の村じゃないけど。	2005.1	2009.1	新田	で そのあとに(0.136)そっから侵攻して行っ		
1960.0	1960.3	優香	うん。	てゆう(0.461)ものがいっぱいあって。	2009.6	2023.0	新田	(D ヒー)(0.195)例えば(0.163)(F あの)	
1960.0	1960.4	洋平	うん。	(0.177)フィリピンだとか:(0.515)いくつかの(0.31)(F あの)(0.177)東ティモールだったかな					
1960.2	1972.9	新田	地球があって(.) (F あの:)(1.49)奪い合っちゃうから:(0.519)結局:(0.352)最初は(0.141)例えばだけでも最初は:(0.411)みんなのために僕が(0.796)全部買うよっつって:(0.34)もらうんだ						
1961.0	1961.6	千秋	うーん。						
1961.0	1961.4	洋平	うん。						
1964.5	1964.8	洋平	うん。						
1964.5	1965.1	千秋	うーん。	2023.4	2035.1	新田	でもただでさえ(D ミ)貧しいのに:(0.468)(F その) そこに(0.657)お金(0.209)(D アガ) (D アガ) 与えるから:(0.501)(F その) 多国籍の:(0.685)(W (U ユーツ) (U 技術))がある:(0.222)		
1967.4	1968.0	洋平	うん。						
1971.8	1972.0	洋平	うん。						
1972.9	1977.1	新田	そのうち:(0.49)既得権益者になっちゃうみたいないなケースがあったりもすんだ。	2035.0	2036.1	優香	うん うん うん。		
1972.9	1973.2	洋平	うん。	2035.7	2039.5	新田	あー お金借りられんの ありがとう つって(0.153)水管理会社に管理させるん。		
1976.7	1976.8	洋平	ん?。	2040.6	2051.2	新田	で そこが(0.186)全部牛耳るもんだから:(1.055)水の:料金が(0.222)いつの間にか:(0.263)リッター十円だったのが:(0.252)リッター百円なって:(0.333)段々 段々高くなって		
1977.1	1978.7	新田	既得権益者に 権益者。						
1979.1	1979.5	洋平	うーん。	2049.2	2049.5	千秋	うん。		
1979.3	1988.6	新田	を持ってる(0.235)みんなのために持つ(0.119)はずが(0.547)いつの間にか(0.458)(F あの)(0.768)権利(0.137)として振りかざすようになってしまうケースが出てきたりだとか:。	2051.3	2061.3	新田	しかも(0.266)メンテナンス (D ノ) もずさんだから:(0.63)(F あの)(0.382)錆びてるだとか:(0.185)(F あの) (L (X # # #))(0.291)ばい菌があるような水も飲まされる みたいないな (0.701)歴史があるんだよ。		
1982.1	1982.4	洋平	うん。	2055.7	2056.4	優香	うーん。		
1985.6	1985.9	洋平	うん。	2055.8	2056.0	千秋	うん。		
1987.3	1988.4	千秋	うーん。	2061.4	2062.0	千秋	うーん。		
1988.3	1989.2	洋平	あー。	2062.8	2073.3	新田	(L だからほんとに)その通りで:(0.9)(F あの)(0.342)所有:する奪い合いだとか(0.205)そこら辺の視点からゆうと(0.209)間違ったことをしてる人たちがものすごい多い。		
1989.3	1993.4	新田	(F あーの) もっと(D フ)ひどいことをゆうと(0.276)(F あーの)(0.119)LMFじゃないけど:。	2068.8	2069.4	千秋	うーん。		
1991.2	1991.5	洋平	うん。	2073.6	2074.6	千秋	うーん。		
1993.5	1997.8	新田	(F あの)(1.746)侵略の:歴史も全部そうなんだけど:。	2074.1	2076.9	新田	水って(0.251)その象徴なんだと思う。		
1997.0	1997.2	洋平	うん。						
1997.8	1998.0	洋平	うん。						

【断片5】 T010_013 (822.3-839.1) 自宅で母・兄と夕食後の団らん (3名)

822.3	828.5	准	だから: 叶くに: (F その) お前が三橋:相手に手抜いてたからじゃねえのかってゆわれた時にチームメイトがみんな庇うんだよね。	836.2	838.1	サブ	ぶるぶる ぶるぶるじゃないけど。 こう ちょっとこう怯えちゃうみたいないなトラウマをね。
828.9	829.6	准	皇のことを。	836.3	836.8	准	(G そう そ) (G そう そ) (G そう そ)。
830.3	831.2	准	そりゃ あんまりだ(W ツツ って)。	836.8	839.1	准	トラウマ:を植え付けた本人ではあるんだけど。
831.2	833.3	准	お前のために悪役やったのにつつて。	837.1	838.1	徹	そう そう そう そう。
832.8	833.4	徹	(T そう そう そう)。	838.1	838.7	サブ	うーん。
833.0	833.1	サブ	あ。				
833.1	836.2	サブ	で 三橋くん こうもう (F あの) 見るだけでこう				

【断片6】 T010_013 (1249.7-1277.2) 自宅で母・兄と夕食後の団らん (3名)

1249.7	1258.4	徹	でそこで:結局:(F その) さっきの会話で: (0.395)お前 できてねえじゃねえかって言われ て 阿部くんが:(1.503)じゃあ もうふざけんな って ばーんて怒ったら。	1262.7	1268.1	准	だ(W ア から)よく阿部くんの中では だって三 橋とコミュニケーション取れるようになるま でも すごい だって色々あったわけじゃん。
1250.5	1250.9	サブ	うん。	1266.6	1267.2	サブ	あー。
1258.1	1258.4	准	そう。	1267.2	1267.7	サブ	うん うん。
1258.4	1260.7	准	要は <u>部外者が口出すんじゃねえじゃないけ ど。</u>	1268.1	1268.6	徹	そう そう そう。
1259.5	1259.7	サブ	うん。	1268.2	1269.9	サブ	夏でもね そうだよね。
1260.8	1261.0	徹	そう。	1268.5	1277.2	准	(W (D ソ) その)その辺のことを全部すっ飛ば して:今のままでお前いいと思ってるわけ:みた いなことを 軽々しく親父に言われたもんだか ら阿部くんが怒るんだよ。
1261.4	1262.7	准	何もわかってねえくせに <u>みたい</u> な。				

主な参考文献

- Clark, H. H. 1996. *Using Language*. Cambridge, Mass.: Cambridge University Press.
- Holyoak, K, J. and Thagard, P. 1995. *Mental Leaps: Analogy in Creative Thought*. Cambridge, MA: MIT Press. (鈴木宏昭・河原哲雄 (監訳) 1998. 『アナロジーの力：認知科学の新しい探究』 東京: 新曜社)
- 岡本雅史. 2019. 「聞き手行動が孕む二重の他者指向性—漫才のツッコミから見る聞き手行動研究の射程」 村田和代 (編) 『聞き手行動のコミュニケーション学』, pp. 59-88, 東京: ひつじ書房
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉.
2019. 「『日本語日常会話コーパス』 モニター公開版の設計と特徴」 『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』
pp. 367-370,
- 小松原哲太・田丸歩実. 2019. 「日本語における直喩の写像方略の類型」 『日本認知言語学会論文集』 19, pp. 37-49.
- 中村明. 1977. 『比喩表現の理論と分類』 国立国語研究所報告 57, 東京: 秀英出版.
- 鍋島弘治朗. 2017. 『メタファーと身体性』 東京: ひつじ書房.
- 山梨正明. 1988. 『比喩と理解』 東京: 東京大学出版会.